

Profile

山本 茜さん

東京都台東区 ⇨ 太田市 (2020年移住)

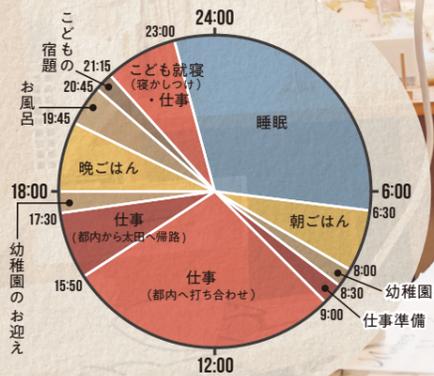
出身は富山県富山市。周弥くん(5歳)と愛犬いちごちゃんとともに東武線・太田駅近くのマンション暮らし。フリーのイラストレーターとして仕事は在宅で行うが、大手出版社からの受注も多く、顧客との打ち合わせや展示会などで定期的に東京に向かっている。また、プライベートでも電車好きな周弥くんと東京まで遊びに出かけることもよくある。

仕事も遊びも、東京の郊外暮らし気分

イラストレーターとして全国的に活躍している山本さん。お子さんの入園を機に太田市に移住し、在宅で仕事をしながら、都内へもフットワーク軽く行き来している。



ある日の山本さんの 子育て&仕事ライフ



子どもにやさしく 温かいまち

イラストレーターとして都内でハードな仕事をこなし、キャリアを積んできた山本さんは、周弥くんが生まれてから東京での生活に困難や不便を感じるようになった。「スーパーやファミレスなどに出かけると、子ども連れというだけで煙たがられるんです。幼い子どもが走り回ったり、大声を出したりするのは当たり前だと思いますが、東京では非難の視線を感じて肩身の狭い思いをしていました。保育園や幼稚園も条件のいいところにはなかなか入れません。仕事は在宅でできるし、子育て環境を考えると地方の方が絶対いいと思って」と、移住のきっかけを語る。

周弥くんの入園のタイミングで東武線・

太田駅近くのマンションへ転居した。太田市を選んだのは、ご主人が仕事の関係で太田を拠点にしていたことから。そのご主人を昨年病気で亡くしたが、太田を離れようとは全く思わないくらい愛着あるまちになったという。「人の温かさが格段に違いますね。子どもと一緒にいて嫌な思いをすることがなくなり、ゆとりを持って子育てできるようになりました」と山本さん。10階のお住まいからは電車もよく見え、周弥くんもここが大好きになったそうだ。

広がるネットワークで 新たな展開も

当初は知り合いが一人もない土地への移住に不安もあったが、今では知り合

いの輪がどんどん広がっている。「プロフィール写真の撮影のためにフォトグラファーを探したのですが、その方が市のパンフレット『OTA magazine』の市民ライターや、『なでしこ未来塾』という起業する人向けのワークショップの運営に参加しておられたのです。私も参加してみたら、そこから一気にネットワークが広がりました」という。さまざまな分野で才能あふれる人々に出会ったことも、太田に住み続けた理由の一つだ。

山本さんの描くイラストは、繊細なタッチとロマンチックな色合いに誰もが心癒される。これまでは出版社が集中している東京や大阪などで実績を積んできたが、今後は太田でつながった人々とコラボして、新たな企画を考えている。『『ホスピタルアート』をやりたいと思っています。実は、主人の闘病中、病院の中の殺伐とし

た雰囲気があったまらなかったんです。闘病中でも四季を感じられるように、毎月季節にちなんだイラストのポストカードを院内に置かせてもらい、心の癒しにしてもらえれば」と、構想を語る。カードの置き台は捨てられている素材を活かす活動をしている人に、事業のプロデュースは得意な人にと、一人では無理なことも、ネットワークを生かすことで実現の見通しが立った。

都内とのアクセスの良さも うれしい

基本は在宅で仕事をしているが、顧客との打ち合わせなどでは都内に出かけることも多い。「太田駅から乗り継ぎなしで浅草駅まで1時間20分。特急券は携帯で買えるので、乗車直前でもピッと押すだけでとても手軽です。逆に、ご近所の皆さんが都内通勤しないのが不思議なくらい」と、アクセスの良さも大きな魅力だという。毎年開かれる東京ビッグサイトでの展示会にも出展するが、じゅうぶん日帰りができるそうだ。

仕事は、周弥くんの送り迎えの時間に合わせて調整している。最長午前7時半から午後6時半まで園に預けられるので、都内に出かけても間に合う。また、どうしても間に合わないときには訪問保育サービスを利用している。こちらも未来塾のつながりで、起業してベビーシッターサービスを始めた卒業生がいたのだ。夜間や病気のときも対応可能というから心強い。他にも、「困ったときは預かるよ」と言ってくれる友達もできた。

休日には、電車が大好きな周弥くんの特急に乗って上野まで行き、公園で遊んで、電車で帰ってくるという過ごし方もする。山本さんにとって、都内はすぐお隣のまちという感覚だ。

心豊かに過ごせる コンパクトシティ

出かけずに家の中で過ごしても、窓から陽光がさんさんと降り注ぎ、ゆったりとした雰囲気を感じて豊かな気分になれるという。「日当たりが良くて夕焼けもす

ごくきれい。マジックアワーの絶景は見とれてしまうくらいです。富山の実家から訪れた母も、空の青さに驚いていました」。自宅近くには太田市美術館・図書館があり、参考資料を探したり、周弥くんと絵本を選んだり、館内のカフェでのんびりしたり……。自宅から眺める夜のライトアップもきれいだとか。

どこに行っても知り合いに出会う、このまちのコンパクトさが気に入っている。「いろんな活動をしている人がいて、いろんな人とつながれるというのは東京では経験しなかったこと。頑張っている女性をみんなが応援してくれるまちですね」と、締めくくってくれた。

1. 見ているだけで心癒される「ホスピタルアート」の見本。
2. 時にはキッチンを仕事場として使うことも。周弥くんの様子を見たり、ベランダ越しに外の景色を眺めたり、気分転換できるそうだ。
3. 駅北口にある太田市美術館・図書館はお気に入りの場所。ここで開かれた『OTA magazine』の市民ライターワークショップで、たくさん仲間を作ることができた。
4. 自宅からすぐの太田駅。特急券は乗車直前でもスマホで購入できる。



車で出掛けたい!

ペーパードライバーで運転に不安があったという山本さんが、群馬の道は走りやすく、すぐに慣れたとか。

人口1人あたりの自家用車普及台数が全国1位と、圧倒的に車社会の群馬県。必須ではないが、車があった方が行動範囲も広がる。

自宅の敷地面積が広いので車を駐車できる場合が多く、スーパーマーケットなど生活に必要なほとんどの施設は、無料の大きな駐車場を備えている。県内の有名な温泉地は都内より近く、近隣の観光地へ遊びに行くのにもマイカーならさらに便利だ。また、パーク&ライドできる駅も多いので、都内へ行くのも困らない。

※1 一般財団法人自動車検査登録情報協会 (R3)



電車が大好きな周弥くんと都内へお出かけ。

